

### 熱間穿孔機を新設

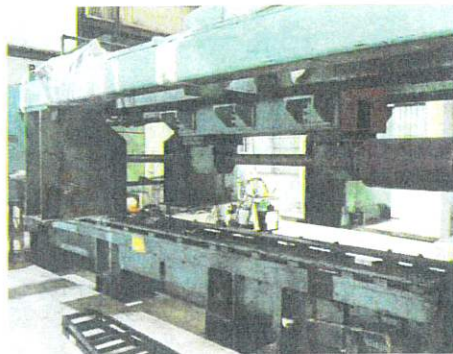
### 電気炉も2台追加

三芳合金工業

特殊銅合金メーカー  
の三芳合金工業(本社  
|| 埼玉県三芳町、萩野  
源次郎社長)は航空機  
関連の設備を増強す

る。航空機の足回りに使われるブッシング材料の自社生産を目的に熱間穿孔機を新設。歩留まりを従来の鍛造での製造方法に比べて高められる。今月中に設置が完了し、10月頃をめぐりにサンプル出荷を

取り付け工事中の熱間穿孔機



始める。さらに電気炉を2台増設して生産性を高めることも計画している。航空機関連需要は中長期的に拡大が見込まれており、強化した設備能力を生かした新規受注の獲得を目指す。

熱間穿孔

機は本物のパイプを製造する設備。同時に導入するBTA設備で深穴加工した穴の口径を広げるのに使う。外径160ミリー350ミリー、長さ1150ミリーと大型のパイプも製造可能で、従来の製法より歩留まりを高められる。設備はダイシンP&Tの尼崎工場から譲受した中古機で、同等の加工ができるものは国内で2台のみ。これまで

で本物のパイプは協力会社に依頼して生産していたが、そのメーカーが製造を中止したため自社で設備をそろえる必要があった。電気炉は7月末、9月中旬頃に1台ずつ導入し、1台あたり数千万円を投じる。増設する炉のうち1台は熱処理炉に加えて鍛造用の加熱炉としても活用する考えだ。昨秋に導入した大型プレス機で高めた生産能力に対応するため、今回の増強で生産上のボトルネック

ク解消を図る。航空機関連需要は、昨年は新型コロナウイルス禍で大幅に低迷したが、足元では中国、欧州向けを中心に徐々に回復。萩野社長は「需要回復は予想より早く進んでいる。2、3年後には19年頃の需要レベルにまで戻る可能性もある」と話す。さらに中長期的には緩やかに拡大するとみている。新規設備の生産能力を生かして受注拡大を狙う。